

修士論文（要旨）

2009年1月

自立している男性高齢者の定年後の生き方

指導 杉澤秀博 教授

国際学研究科

老年学専攻

207J6013

根岸 貴子

目次

I. はじめに	
1. 幸福な老いに関する研究	1
2. 定年退職や就業生活の経験に関する研究	2
3. 研究目的	3
II. 研究方法	3
1. 調査対象者	3
2. 調査方法	3
3. 分析方法	3
4. 倫理上の配慮	4
III. 結果	4
1. 全体ストーリーライン	4
2. 退職前の人生経験に対する評価	5
3. 老後の捉え方	7
4. 加齢による制約	8
5. 現在の生きる拠り所	9
IV. 考察	11
1. 本研究の成果	11
2. 今後の課題	13
引用文献	14
表と図	

I はじめに

本研究では、質的調査に基づき、定年退職を経験した男性高齢者が現在の生き方をどのように構築してきたのか、そこには就業経験がどのように影響を与えているかを明らかにしようというものである。

本研究の意義は次の2点にある。①幸福な老いの研究で位置づけが弱かったライフコースの視点から、高齢期における生き方を規定する要因を解明できる。②ライフコースの中でも定年退職や就業経験を取り上げることで、その長期的な影響についても言及することができる。

II. 研究方法

調査対象者は、東京近郊に在住の男性高齢者で、病院には通院している者も含まれるが、認知症がなく日常生活が自立しているサラリーマンであった男性、計12名を対象とし、すべて定年退職を経験しているものであった。調査は半構造化された調査票をもちいて面接で行った。分析にあたっては、修正版グランデッド・セオリー・アプローチ（以下M-GTA）を採用した。

III. 結果

コアカテゴリーとして《現在の生きる拠り所》《老後の捉え方》《退職前の人生経験に対する評価》《加齢による制約》の4つが抽出された。（ ）内は概念の説明である。

《現在の生きる拠り所》は【積極的な人生の追求】【健康が一番】【現状維持で満足】【家族以外の人との関係を楽しむ】という4つのサブカテゴリーに区分された。この《現在の生活の拠り所》は、《老後の捉え方》によって影響されていた。

《老後の捉え方》は、【制約からの解放】（現役時代の苦勞から解放されたい欲求と仕事中心の職縁から距離を置きたい）、【中年期の延長】（アクティブに活動し、職域の経験を生かす）の2つに区分された。そして、《現在の生活の拠り所》との関連では、【制約からの解放】が【家族以外の人との関係を楽しむ】に、【中年期の延長】が【積極的な人生の追求】へと結びついていた。

この《老後の捉え方》に対しては、《退職前の人生経験に対する評価》が影響していた。《退職前の経験に対する評価》は、【仕事上のストレス経験】（仕事が苦い経験となっている）、【欲求を抑圧】（貧困や仕事上の忙しさでやりたいことを我慢）、【仕事がすべて】という3つに区分できた。《老後の捉え方》に対しては、【仕事上のストレス経験】と【欲求を抑圧】が【制約からの解放】に、【仕事がすべて】が【中年期の延長】に影響していた。

以上のプロセス以外に、退職後の経験、すなわち《加齢による制約》によって《現在の生きる拠り所》が形成されるということもあった。すなわち、《加齢による制約》は【身体の老化を実感】と【人生の終末を考える】の2つのタイプがあったが、このうち、【身体の老化を実感】が【健康が一番】に、【人生の終末を考える】については【現状維持で満足】だけでなく、《老後の捉え方》の中の【積極的な人生の追求】へと結びついていた。

このようなプロセスについて、ホワイトカラーとブルーカラーの男性高齢者で対比した場合、ホワイトカラーの男性高齢者については、《老後の捉え方》として【中年期の延長】、《現在の生活の拠り所》として【積極的な人生の追求】、さらに、《加齢による制約》として【人生の終末を考える】の比重が高いことも明らかとなった。

IV. 考察—本研究の成果

本研究の方法論は、就業経験に対する本人の評価が調査時点における生活の仕方によどのような影響があるかを分析するという質的方法に基づいているため、就業経験が客観的なものというよりも、調査時点での生き方によって影響されるという点では主観的なものといえる。このことは、本研究で採用した方法論の制約であるという反面、質的研究のオリジナルな点である。

1. 老化のプロセスの立場からみた男性高齢者の生き方

彼らは自分の人生を教訓に生かし、納得した生き方を目指している。この点においては継続理論があてはまる人たちと言えるが、加齢とともに健康上の制約から現状維持志向に傾き、離脱理論の立場をとるようになる。すなわち、男性高齢者の老後については、活動理論・離脱理論・継続理論のいずれか1つが該当するのではなく、個人の中でその該当する期間が段階的に発生していることが示唆された。そして加齢による制約がステージの切り替えを調整していることも分かった。しかしながら、ブルーカラーにおいては継続理論が該当するケースが少なく、どちらかといえば離脱理論があてはまる人が多いという特徴がみられた。

2. 就業経験からの影響

就業経験は、そのノウハウを直接老後の生活に生かすというよりも、仕事一筋に生きてきたという点で自尊心の源泉として存在しており、ともかく一生懸命に働いたということが自己肯定感となり、老年期における自己の自負として根付いた。そのことが老後において自負となり生きる源泉の一つとなっていた。

他方では、就業経験は仕事から距離を置いた老後に結ぶつく可能性も示唆された。すなわち、特に仕事上のストレスフルな経験は、ストレスからの解放と職域関係から隔絶した人生を模索させるという点で老後に影響をあたえるものであり、さらに老後の生き方を決める動機となっていた。

引用文献

- 1) 小谷野亘：サクセスフルエイジング（小谷野亘、安藤孝俊編）新社会老年学—シニアライフのゆくえ、（小谷野亘、安藤孝俊編）、ワールドプランニング、141-151、2003.
- 2) 杉澤秀博：老化の社会学説、柴田博、長田久雄、杉澤秀博編、『老年学テキスト』、建帛社、44-52、2007.
- 3) Neugarten, BL, Havighurst, R, and, Tobin, S, S : The measurement of life satisfaction、Journal of Gerontology、16、134-143、1961.
- 4) Lawton, M, P. :The Philadelphia Geriatric Center Morale Scale:revision Journal of Gerontology、30、85-89、1975.
- 5) 古谷野亘：生きがい測定—改定 PGC モラール・スケールの分析—、老年社会科学、3、83-95、1981.
- 6) Lerson, R:Thirty years of research on the subjective well-being of older Americans、Journal of Gerontology、33、109-125、1978.
- 7) 古谷野亘：モラールに対する社会的活動の影響—活動理論と離脱理論の検証—、社会老年学、17、36-49、1983.
- 8) 前田大作、浅野仁、谷口和江：老人の主観的幸福感の研究—モラール・スケールによる測定の試み—、社会老年学、11、15-31、1979.
- 9) 古谷野亘：老後の幸福感とサクセスフル・エイジング、柴田博、芳賀博、長田久雄、古谷野亘編、『老年学入門 学際的アプローチ』、215-217、川島書店、1993.
- 10) 古谷野亘：老後の幸福感の関連要因—構造方程式モデルによる全国データの解析—、理論と方法、8 (2)、111 - 125、1993.
- 11) 杉澤秀博、柴田博：職業からの引退への適応—定年退職に着目して—、生きがい研究、12、73-96、長寿開発センター、2006.
- 12) 長田久雄、安藤孝敏：定年退職が精神健康と主観的幸福感に及ぼす影響、産業ストレス研究、15 (2)、106-11、1998.
- 13) 中里克治、下仲順子、河合千恵子、石原治、権藤恭之、稲垣宏樹：中高年期における職業生活からの完全な引退と失業への心理的プロセス、老年社会科学、22 (1) 2000.
- 14) 林文俊、松浦いね、松浦均、若林満：定年退職者の在職中の経験と退職後の生きがい、経営行動科学、5 (1)、27 - 38、1990.
- 15) 東京都老人総合研究所社会学部：『定年退職に関する長期的研究（2）—職業・成生活の変化についての追跡調査—』、東京都老人総合研究所、1986.
- 16) 東京都老人総合研究所社会学部：『定年退職に関する長期的研究（3）—職業・成生活の変化についての追跡調査—』、東京都老人総合研究所、1991.
- 17) 有菌博子、森田展彰、松崎一葉、蓑下成子、吉川麻衣子、佐藤親次、：中高年における心理的要因の変化—退職期前後を中心として—、日本社会精神医学会雑誌、7、141-151、1998.
- 18) 岡本祐子：引退危機から見た老年期のアイデンティティ様態と心理社会的課題達成の特徴」、広島大学教育学部紀要（第2部）、47、141-148、1998.
- 19) 野村千文：高齢者の生きがいの概念分析、日本看護科学会誌、25 (3)、61-66、2005.
- 20) Erikson、朝長政徳訳：『老年期—生き生きしたかかわりあい』、みすず書房、1990.